

自由帳

「わくわくエンジン」原動力に

わくわくして動きださずにはられない。そんな原動力のようなものが誰にだってあるはずだ。それを見つければ、子どもたちは自分で動き出す。川崎市のNPO法人「キーパーソン21」の代表、朝山あつこさん(55)は、その原動力を「わくわくエンジン」と呼び、子ども一人一人から引き出す活動を続けている。

子ども向け活動プログラム

例えばアニメが好きなら、アニメがわくわくエンジンなのだろうか。朝山さんによれば、そうではない。

野球に夢中な子どもがいれば、大人はつい「野球選手になれば」と言う。しかし、プロ選手にまでなれる人は多くない。中学高校ぐらいになると「おれ、プロは無理だし」と気付き、挫折したような気持ちになる。

キーパーソン21のプログラムを一緒に受けた中学生の中で、3人が野球に打ち込んでいたケースがあった。なぜ野球が好きなのか。突っ込んで聞くと、A君は作戦を立てること、B君はチームに自分が役立っていること、C君は素振りや筋トレで日々、成長を感じることと答えた。わくわくエンジンは三者三様だった。

それなら3人とも打ち込む

川崎市のNPO法人 生きる力引き出す

対象は野球に限らない。「このわくわくエンジンを自分で見つけているか、親や先生が理解しているかが、とても重要です」。キーパーソンの活動は、子どもたちがまず自身を知ること、次に社会を知ることを目指す。そのためのプログラムは多様だ。

自分や友達の好きなもの、大切に思うことを知り、世の中の仕事とつながっていることに気付く「すきなもののビンゴとお仕事マップ」、初めて会う大人と会話し「伝える・尋ねる・お願いする」の3部門突破を目指すコミュニケーションゲーム…。

わくわくエンジンを見つけたい子は劇的に変わると朝山さんは言う。最近も小6から不登校だった男子高校生が、個別プログラムを受けた後、急に登校し始めた。

いた子は3万5千人を超えた。朝山さんは男の子3人の母親。18年前、中2だった長男の学校が荒れた。生徒が暴れ、廊下に牛乳をまき、トイレを壊す。ひどく無気力になる子もいた。「暴れる子も無気力な子も退屈そうに見えた。何に向かって生きていくかわからなくなっているように感じた」と朝山さん。目標は親や先生に与えられるだけ。主体性が奪われてしまっているのではないか。

長男は中3になって「高校に行かない」と言いだす。それは朝山さんの固定観念を揺さぶった。「一本取られたと思いました。確かにこれが学校だと思ったら学校に行きたいと思うわけではない。学校や地域、家庭、日本の教育のあり方そのものが問われている」と気付く。

自分の子どもだけの問題ではないと2000年、キーパーソン21を創設する。NPOの活動と自らの子育て経験から、課題とその解決の道筋をつかみ「一人一人が輝く」という理想の実現に向けて走っている。



コミュニケーションの始まり。紙にニックネームを書いて自己紹介する
(キーパーソン21提供)

キーパーソン21は生活保護世帯の中学生を対象に無料の学習会を開いている。中3で母親に連れて来られたトシ君(仮名)は午後6時半から2時間の教室なのに、終了直前に来て5分間だけ勉強して帰るような状態だった。

ある日、わくわくエンジンのプログラムを受けたので、朝山あつこさんが感想を聞くと「自分に感動した」。彼のわくわくエンジンは「幸せな家庭を築くこと」だった。

そのためにはお金を稼がなくなくてはならない。彼は「どうせ働くなら好きなことをしたい。モノ作りが好きなので建築科のある学校に行き資格を取りたい」と話した。学ぶ目的が明確になって見違えるように勉強を始めた。全日制の工業高校に合格した。

勉強が中だるみになった時期もあった。朝山さんが「トシ君、

明確な目的意識 勉強支える

このごろどうしたの、やる気なくなっちゃった? 幸せな家庭築きたいんじゃないかったっけ」と声をかけると「そうだった、そうだった」と思い出したかのようになり、また勉強に集中した。「わくわくエンジンはそんなふうに、原点に戻るところなんです」

資格取得を目指して高校も休まずに通っている。

学習会に来る中3の少女は外国籍の母と2人暮らし。「働きたいの母を助けたいから中学を出たら働く」と話していたが、プログラムを受け「親のいない子のための施設をつくる」という夢を見つける。母の母国でホームレスの子と接した体験があったからだ。

朝山さんは「夢のためにも進学を諦めない方がいい。助成制度を利用すれば進学できる」と勧め、少女は夢の実現に向かって歩みだした。

小学校では現在、5年生から英語(外国語活動)を学習しているが、2020年度からは3年生から学習するようになる。来月は「小学校英語」の授業現場をルポしながら、その行方について考えます。

社会部「教育取材班」宛てに、ご意見をお寄せください。手紙=〒810-8721(住所不要)、ファクス=092(711)6246、メール=kyoiku@nishinippon-np.jp

来月のテーマ「小学校英語」